

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

(財)日本水産油脂協会新館内

TEL & FAX: 03-3469-6931

E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

乳児の発育発達とDHA

米久保 明得

過去、会社の業務として乳児用調製粉乳の開発に20年以上従事してきた。これまで乳児栄養に関わる研究開発の主体である乳児用調製粉乳の開発に身を投じてきた。その後、くしくも、昨年から実地で乳児の発育発達をみる環境ができた。個人的な話であるが、昨年7月19日の海の日に二女が女児を無事に出産した。この協議会だよりが出るころには、つかまり立ちの段階から歩き始めるようになる、10ヵ月の誕生日前を迎えることになる。ほとんど母乳哺育である。乳児の発育発達をこれまで機会あるごとに観察してみると、乳児の発達にとって本当に何が必要であるのかが見えてくるような気がする。乳児の発育発達には母乳に含まれている成分が必須であるケースがほとんどである。母乳に含まれる成分を出来るだけ多く摂取できるようにすべく粉ミルクを設計するようこれまで心がけてきた。ラットの動物実験データでは、DHAを母乳レベルに強化した場合はそうでない場合に比べて相対的に母乳中のDHAが増加すること、その母乳を摂取した仔ラットの方が体内のDHA含量が多いことを自分で証明した。DHA強化粉乳を試作して自分の子供3人に時期が異なるものそれぞれ与える機会を得た。成長したその後の子供たちは頭のよしあしは不明ながら正常に普通に成長した。その子供から生まれた孫に相当する乳児の体内の状態がどうなるかが楽しみである。ただ、DHAに富むミルクで育ったはずが、二女は小さい時から魚も好むがそれよりももっぱら「から揚げ」が大好きなため、体内の脂質状態はn-6系列が主体になっていると思われる。その子供なので、体内の状態がどのようになっているか不安で果たしてDHAの多い状態とはとても思えない。自分で考える通りには事は運ばないことを実感する。幼児食以降には魚をたくさん食べさせるように教育しよう。個人差はあるものの、当然、これまでの食事の影響が子供に大きく影響されているはずであるが相対的なことなので、それが悪いという訳ではないことは当然である。

乳児の発達には不思議なものを感じる。個人差は当然あるが、乳児の動きはその月その月に応じて対応するように出来ているように感じる。「這えば立て立てば歩めの親心」とはよく言ったもので、乳児の発達は生まれ持った本能に基づいて行動を開始する。目が見えはじめ、歯がはえはじめ、手足の動きの準備体操をしている。時が来るとこれまでの行動の結果として歩きはじめる。最近の文献でも筋肉の発達とDHAやEPAが関係している報告が発表されている。DHAなどは手足の発達と動きにあわせた神経の発達と結びついて体を制御しているのであろう。脳の発達と運動能力の向上との関係はどうなるのであろうか。生命とはまだまだ謎だらけである。

〈水産物の放射性物質検査に関する基本方針〉

水産庁は、東京電力福島原子力発電所の事故に対応する「水産物の放射性物質検査の基本方針」を作成し、関係都道府県、関係団体へ通知しました。

同通知は本会へも寄せられており、詳細については以下のサイトをご確認願います。

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/110506.html>

〈幹事会のうごき〉

平成23年4月8日(金)15:00~17:00に、(財)日本水産油脂協会新館において平成23年度第1回幹事会が開催された。

- ・本年度総会資料について、最終的な検討が行われた。
- ・「DHA・EPA研究会」が「鰹節」をテーマに、東京海洋大学の和田先生を講師として7月13日(水)、(財)日本水産油脂協会の会議室で行われることになった。
開催日が近づきましたら、改めて会員各位へご案内いたします。
- ・本協議会ホームページの作成について、進行状況が報告された。